

## 第1回武道振興施設のあり方検討会 議事録

### 1 日時

平成26年6月16日(月)午後3時から午後5時まで

### 2 場所

長野県庁8階 教育委員会室

### 3 出席者

(委員) 犬飼己紀子委員、酒井浩文委員、野口京子委員、町田明彦委員、和田哲也委員  
(事務局) 教育長 伊藤学司、教育次長 青木弘、スポーツ課長 茅野繁巳 ほか

### 4 議事録

(伊藤教育長)

武道振興施設のあり方検討会の第1回目の開催に当たりまして、一言ご挨拶を申し上げます。

委員の皆様には大変ご多忙のところ、本検討委員会委員の委嘱に当たりましては、快くご承諾いただきましたこと、また本日大変ご多忙の中、第1回の会議にお集まりいただきましたことを深く感謝申し上げます。

武道振興施設につきましては、これまで多くの県民の方からいただいたご要望等を踏まえまして、しあわせ信州創造プラン、昨年3月に策定いたしました5年間の県の総合計画でございますが、このしあわせ信州創造プランにおきまして、武道を振興するための施設のあり方を検討することを位置づけたところでございます。

そこで、本検討会におきましては、武道振興施設はどうあるべきかを検討するものでございまして、具体的には武道の振興のためにどのような施設が必要か、またその施設にどのような機能が必要か、などについてご検討をいただきたいというふうに考えております。

本日は、第1回目の会議でございますので、武道を取り巻く現状等について事務局から説明を申し上げた上で、委員の皆様から忌憚のないご意見をお聞かせいただければというふうに思っております。

結びに、本検討会を通じて本県の武道の振興はもとより、中学校における武道必修化の観点から、青少年の健全育成にもつなげたいというふうにも考えておりますので、お力添えを何とぞよろしく願います。

(中略)

(和田会長)

本日の会議ですけれども、おおむね5時頃を目途にと思っておりますので、円滑な議事の進行にご協力をお願いいたします。

それでは、まず武道を取り巻く現状ということで事務局からご説明いただきたいと思っております。まず、長野県あるいは全国の武道施設がどのような状況になっているのかということを知ることが大前提だと思いますので、その辺事務局からよろしく願います。

(事務局)

資料4 - 1から資料4 - 3を説明。

(和田会長)

ありがとうございました。ただ今の事務局からの説明を受けまして、委員の皆さんからご質問等ございましたらご発言をお願いしたいと思います。

全ての説明が終了した後で意見交換の時間をとっておりますので、まず忌憚のないご意見をください。

(酒井委員)

この検討会の設置の意図的な部分をお伺いしたいのですが、これは県立武道館を建設するための前段での検討会という位置づけでよろしいのでしょうか。

(茅野スポーツ課長)

先ほど教育長のあいさつにもございましたとおり、武道を振興していくためにどうしたらいいか、どういう施設が必要かとか、総合的にいろんなご意見をいただきたいと思っています。今委員から「県立武道館」というご発言がありましたけれど、後ほど説明いたしますが、県立武道館ではなくて武道を振興する施設もございますので、県立武道館ということではなくて、総合的に武道を振興するためにはどうすればいいかということをご議論いただきたいと思っています。その結果、もしかすれば必要ということもありうるということです。

(酒井委員)

あくまでも目的ではないのですね、これは。最後に武道館をつくるための前段の検討会というわけではないと。

(茅野スポーツ課長)

本検討会では、武道を振興するためのあり方を検討していただきたいと思っています。

(酒井委員)

ありがとうございます。

(野口委員)

武道のこと、現在の教育現場の内情をあまりわかっていない立場での意見ですが、先ほどのご説明で、68中学校は体育館を利用しているということでしたが、現在武道場がない中学校については、個々の中学校に武道館を設立する、柔剣道場を設立するというような予定はありますでしょうか。

(茅野スポーツ課長)

県内公立中学校187校全てで、何らかの武道をやっているわけですが、資料の「参考」のところに記載してありますが、武道場を設置する学校は99、その他の武道場を利用する学校が20、合計119になるわけですが、差の68が体育館等を利用して

る状況です。武道の中にも、柔道・剣道、大きくいうとその2つがありまして、剣道を授業に取り入れている学校が多いですけど、そういうところは体育館等を利用しているような状況でございますが、新たに学校の中に武道場をつくる計画等は聞いておりません。

(野口委員)

ありがとうございます。もう1点、つい最近に出たニュースの中で、体育館の耐震工事でしたっけ。老朽化しており、早急にその改修を行わなければいけないというふうな記事を見たのですが、それは同時進行で行われているのですか。

(茅野スポーツ課長)

学校施設の耐震化については順次計画的に進められているかと思います。

(和田会長)

それでは続きまして事務局から説明をお願いいたします。

武道館の状況ですね、それから県内の武道施設の状況等についてお願いいたします。

(事務局)

資料5 - 1から資料6 - 2を説明。

(和田会長)

ありがとうございました。今、資料をいろいろたくさん見せていただきまして、なかなか理解するのは急には難しいかとも思いますが、少なくとも長野県といくつかの県以外は、県立の武道関係の施設を持っているということ、それから、利用状況もかなり高いということだと思っておりますが、何かご質問等ございましたらご発言をお願いいたします。

(犬飼委員)

福島県は武道館建設予定なしということなんですけども、全国都道府県立武道館協議会に入っているということなんですけど、これは別に武道館あるなし関係なしに入れる会であり、長野県も入ろうと思えば現時点でも可能ということでしょうか。

(茅野スポーツ課長)

はい。福島県は福島県営あずま総合体育館が施設として入っておりまして、そこでは武道大会の開催、剣道とか柔道の大会等を開くこともできますし、そこを武道館協議会対象施設として加盟しております。長野県もどこかの体育館でできるようにすれば、武道館協議会に入れることは入れます。ただ、今のところ入っておりません。

(町田委員)

補足すると、実際協議会に入っていないのが長野県と新潟県だけなんです。あとは全て入っています。私たち武道連絡協議会では、そこに入ろうというのが最初で、松本の総合体育館とかいろいろ検討してみたんですが、入ることは簡単なんですけども、やっぱり事務局とか担当とかきちっと決めなければならないということで、そのままになって今いるんですけど。基本的には、県立武道館が、補助金とかいろいろ大会のときの援助、指導

者の窓口となっております。指導も全国回っております、これ日本武道館が主催しているんですけど。そういう中では、長野県と新潟県だけが協議会に入っていない。大体、ちょっとそこら辺が寂しいんですけど、そういうことで大変苦慮しているという状況です。

(和田会長)

補足しますと、私は剣道ですけども、剣道関係なんかでは、いろんなルールの変更とかいろいろのことにに関して伝達講習会というのが各県で出てきてやっていただくんですけども、そういうのも県立武道館がありませんので、どこかの学校の体育館を借りてとかいうような形でやっています。だから、窓口というんですか、そういう受けていただけるところがないというのが、恐らく指導者の指導と言いますが、それにもちょっと差し障りがある可能性があるというところかと思えます。

(犬飼委員)

もう一つ、箱物が先か、組織が先かということもあると思うんですけど、同時進行で平行して、組織もつくっていく、そしてその事務局を置くところは10団体が何とか協力して場所をお願いして確保していこうと立ちあがることによって、建物も建設していこうというほうに大きく力が進むのではないかなと考えるんですけど、その辺は県のほうでは10団体さんへのそういう働きかけというのは考えられてないのでしょうか。

(茅野スポーツ課長)

先ほど、長野県武道連絡協議会の説明をさせていただいてあるんですけど、長野県武道連絡協議会はまだそこまで組織的にきちっとされたものではございませんし、事務局がどこかに特定の場所があるわけではないんですね。武道振興施設のあり方ですから、例えば仮に県立の武道館みたいなのができるとすれば、それを県が直営すればそこに事務局みたいなのが置かれると、そのまま兼ねるような形になりますでしょうし、指定管理をするようなスタイルをとれば指定管理先が事務局みたいになった形になると思うんですね。ですから、結果として振興の仕方が、そういう箱物をつくって振興したほうがいいということになると、事務局がついてくるという形だと思います。これをつくらないでどこかで事務局をやるといって、どこかにお願いしてやっていただく、ということかと思えます。

(町田委員)

各県は武道館の館長さんが一応頭になってます。県体協とかそういうところは一切関わらないような形で、その県立武道館の館長さんが代表という形でなっております。そういう状況です。

(野口委員)

これまで、長野県で県の武道館がない中で行われてきた全国レベルの大会ですが、これまでの大会の困難であるとか、不備であるとか、分散して行われることのデメリットであるとか、エムウェーブを使って相撲をやっている準備のこととか、施設をつくらなければいけないということとかいろいろあると思うんですが、今、何が一番大会を運営していて困難なのでしょう。困難というか、何か問題があるのでしょうか。

例えば、バレーボールでいうと、国際大会や全国レベルの大会を開くとすれば、観客席

をつくったり、大きな大会だと体育館の上にシートを敷いたりということで、大がかりな会場づくりをしなければいけないような状況とかもあるんですが、そういう面ではその運営の困難さというようなことが武道関係でわからないので、もともとでき上がってるものがあるのがベストだとは思いますが、現状の問題点についてちょっとお伝えいただければ。

（茅野スポーツ課長）

私も専門家じゃないのですが、例えば総合体育館等で仮設で会場をつくられるわけですが、実際、武道館の床と普通の体育館の床というのは全然違うというようにお聞きしております。武道館がないから体育館を使っているけれども、全然レベルが違うというようなことをお聞きしています。これは、和田会長さんから専門的な立場でお話いただければありがたいのですが。

常に仮設で行っているということが、それに要する準備も非常に大変だと。ただ、大きな大会であれば、武道館で全て賄いきれるかというのはちょっとまた別問題で、例えば、アリーナ的な施設、長野市のビッグハットとかそういうところをどうしても使わざる得ない状況も出てきているかと思えます。今まで長野県では県立武道館はございませんので、総合体育館なりここ数年ではビッグハット、エムウェーブとかそういうアリーナ的なところ、多目的施設を利用して開催してきている状況です。

実際の競技団体から、こういう不都合があるというのはちょっと把握してございませんけれど、町田委員さんは大会を開いてらっしゃるんでちょっとお話をお願いしたいと思います。

（町田委員）

ちょっと補足をさせていただきますが、例えば国体とかそういう全国大会レベルだったら、県立武道館ではできないんです、どこかを借りなければ。

特に今大変なのが柔・剣道が苦労してます。特に柔道は、畳をリースして、あらゆるところから集めてそれで大会を開いてるのは現実です。

北信越の大会とか、各ブロック大会は県立武道館でできるんですが、全国レベルの大会はとんでもない。そこではできないと思います。そこまでまたやろうとも思いませんし、それは何年に一遍の話なんで。逆に言うと振興して行って、競技人口を増やしたり、そういう中での位置付けでの県立武道館が必要じゃないかということで。あと合宿所とかそういうものがないので、ばらばらで今やっていますので、そこら辺も協議していただきたいなと思っています。

（和田会長）

剣道関係で言いますと、先ほどちょっと床の話がありましたけど、いわゆる体育館の床と本来の剣道場の床というのが違ってまして、やっぱり剣道の場合、踏み込んだときの圧力というのは瞬間的に1トン以上の力がかかるとにかかります。だから柔剣道場、特に剣道場をつくる場合は床にスプリングを入れた形にしないと、非常に足・腰に負担がくる。だから、本来の剣道場であればそういうスプリングを最初から入れた構造になってますけど、体育館の場合は、普通の運動をやろうと思ったら床にスプリングが入ったらやりにくいですよ。だからそういうことはしてないです。今、おっしゃったみたいに大きな大会で非

常に多くの試合をこなさなければいけない場合は、恐らく県立武道館の一番大きいレベルでもなかなか大変かもしれません。でも北信越程度のレベルですと大体そうですね、福井県立武道館ですと6面ぐらいありますので、いつも学生の北信越大会とかはそういうところでも十分にやれるのですよね。しかも非常に床の状態がいいです。だから本来のことを言いますと、細かく言えば床の問題もあるし、それから天井の高さの問題などもあります。やっぱり響いてくる音とか、そういうこともかなり剣道では大きな要素になっています。あんまり抜けてしまう剣道場っていうのは私もやっていて気持ちがよくない。だからやっぱりそれならそれなりの環境というのがあったほうがものすごく技術的にも伸びやすいと、確かにそういうところがありまして。だからただ人数をこなさなきゃいけないから、体育館を使えるからいいじゃないかというふうにはすぐにはいかないところがあります。だからこれはもう専門で見てらっしゃる方、皆、そういうことを思っただけでいいんですが、大きな大会を運営するのであれば仕方がないから、その広いところで、少々床が硬いけど仕方がないねということでやっているのが現状だと思います。柔道も同じですね。畳を床の上に敷いただけではもう痛くて。

(町田委員)

長野市内でまともな施設というと、東和田の総合体育館の中に柔道場と剣道場がある。大分古いですけど、あれもやまびこ国体のときにできた総合体育館。まともといえばそれぐらいです。あとはもうコンパクトで。ただ、東和田の運動公園の体育館でやったときに、この間剣道の皆さんにお話を聞いたのですが、やっぱりバレーボールをやったりする総合体育館なので、テープで用意をしたり、何かそういうことを相当やらなければ大会ができないらしいと。けがをするので、そういう使い方をしているということです。そこら辺も皆苦労されているようです。

(和田会長)

裸足ですからね。

(町田委員)

裸足なんです。

(和田会長)

ちょっとほかのスポーツにはない。

(犬飼委員)

日本古来の伝統に基づくとという武道で、道を教えていくところが、欧米から入ってきたスポーツとはまたちょっと違って、特徴的なところだと思うんですけども、それを大切にすることというのがここにもうたわれている中で、普通の体育館ではないもの、いわゆる心の部分なのかな。そういうものをきちんと設置することが教育的に大事なんだとか。そんなことは、武道館がなければ、あるいはあったほうがそれができるというふうなことがあるんでしょうか。普通の体育館ではできない、教育とか。

(和田会長)

学校の柔剣道場につけると若干問題になりますけれど、神棚とかを祭ってある場合がありますよね。体育館にはもちろんないわけで。基本的に礼法その他を含めて教える場合は、まず道場に入ったときの神前とか上座に対する礼とかいろんな形が伝統的にでき上がってますんで、体育館でそれをやるというのはやりにくいです。武道館でも特に何かの神様を祭ってるとかそういうわけでもないんですが、要するに、その上座という形で定めてますから、形として。そうすると、そういう礼式は非常にやりやすいということになります。だから、体育館に入ったらどっちが上なのか下なのかということになります。

そういうのも結構、剣道、柔道なんかの礼法には関わるところで、そういう意味ではやりやすいですね、専用のところのほうがね、はるかに。

いろいろ具体的な話も出てまいりましたけれども、委員の皆様にはもしかしたらあまり武道関係のことにお詳しくない方もいらっしゃると思いますので、やっぱり武道、別に武道だけ特殊だというふうに取り上げるつもりはありませんけれども、やっぱりその運動の特徴から、どうしてもそうならざるを得ない、専用の施設が欲しいなというのはどこの団体も皆さん思ってるところで。それと先ほど言いました、中央の組織との関係なんかも、やはりそういう窓口になる施設があるということが、非常に円滑に働く大事なところなので、そういう意味では振興するためにもまず施設が必要ではないかなと、私なんかは考えておりますけれども。

(犬飼委員)

東京オリンピック・パラリンピックが決まって、長野県というオリンピック開催県ですよ。そういう県でありながら、東京に来るオリンピックの応援というかサポートする意味でも合宿場ですとか、練習場ですとかはいろんな種目において必要なと思うのです。また、新幹線も通るというふうなことで、観光、スポーツ観光も含めていい立地条件にあるかなと思うので、可能な限り早く武道館を建てられるといいなと思うんですけれども。率直な意見です。

(和田会長)

そうですね。はい、ありがとうございます。そのとおりだと思います。

ラグビーなんかも菅平辺りで非常にやっていて、有名になりました。ああいうような形でうまく広げていくことができれば、いろいろなお客様を呼ぶこともできるし、スポーツ振興にもつながるといいことだと思いますけれども。

(野口委員)

本当に初歩的な質問で恐縮なんですけど、武道館というこのイメージを見ても、いろんな種目、柔道、弓道、剣道とこう1つのところに集める意味は何なんですかね。逆に言うと、大会を一緒のところでは全部開く、そこが交流することはないと思うんですけど、大会として2つ種目に出るとかで一緒に近くに合ったほうがいいとか、かえって一緒にすることで駐車場とかそういうことを考えると分けたほうがいいのではないかという、本当に基本的な質問で恐縮なんですけど。一緒にするメリットは、その事務的なところですかね。

(和田会長)

県によって恐らく事務局をその武道館の中に置いている場合もあれば、そうでないところ

るもあるかと思えますけれども、そういう武道関係の団体の連絡が取りやすいことは事実だと思えます。それから、国体なんかもそうですけれど、なるべくそういう種目を近いところで開催したいとなれば、やはり、ばらばらよりは恐らくいいだろうなというところはあると思えます。ただ、おっしゃるように別にばらばらでもいいじゃないかと言えないことはないと思えます。私を感じるのところでは、そういう団体が、密に連絡が取れるということが一番のメリットではないかなというふうには思っています。

(町田委員)

平成20年10月に10団体で長野県武道連絡協議会を立ち上げたんですが、それまではばらばらでした。話をすれば、柔道はこういう悩みがある、剣道はこう、空手はこう、といういろいろ聞いてると出てくる。これはやっぱり立ち上げてよかったと思いました。

柔道場もスプリングが入ってますので、そういうところが基本的にないというか、わずかにしかないということが一番問題でね。もう、野口さんのおっしゃるように、やっぱり柔道だとか、剣道だとか、相撲だとかばらばらではなく、皆一緒にあったほうが、会長がおっしゃるように、いろいろ情報交換できるんです。やっぱり、今の武道はうんと競技人口が少なくなってきておりまして。そういう中では例えば、柔道やる人が相撲をやってもいいのだし、そういう中で、ぜひ、やっぱり複合的なものがあって情報が交換もできますし、競技でダブったりしているところもありますので、そういう中でやっぱり必要なと思っています。

(事務局)

資料7-1から資料7-2を説明。

(和田会長)

はい、ありがとうございます。武道の長野県の競技人口等についてご説明いただきました。今のを含めまして何かご質問等ございましたら、お願いいたします。

(酒井委員)

登録者数をお示しいただきましたけども、これは長野県の数値ですが、全国的に見るとこの数字というのはどうなのでしょう。長野県の武道に関わるというか、登録されている選手の数というのは。

(茅野スポーツ課長)

すみません。ちょっと手元に全国状況を把握したものがございませんので、全国の状況をわかる範囲でまとめたものをつくりましたら、また資料としてご提供したいと思います。

(和田会長)

恐らく、東京とか大阪等の人口の大きい都市に比べるとやはり少ないということは多分間違いなことだと思います。ただ、同じような人口レベルのところと比べるとどうかというところで詳しくはちょっとわからないので、ぜひ1回データの提供をお願いしたいと思います。



(野口委員)

競技力的水準については、年々上昇傾向であるというふうに思っていますかね。

相撲もだんだん順位が上がってきますし、柔道も22位から12位、10位と。弓道もそうですし。長野県の競技水準は活性化されてきていて、これで事業の中で結集化されることでより一層競技力の向上をとということも含まれているんですか。

(茅野スポーツ課長)

代表的な例として国体の状況をお示ししてございますが、ものによってですけど、おおむね少しずつレベルアップしている状況です。ご案内のとおり、長野県は国民体育大会の冬の競技は非常に素晴らしい成績をいただいているんですけど、夏の競技は武道に限らずトータルで見るとちょっと全国的には下のほうでございます。両方合わせてトータルでいくと中の上についてますけれど、そういう中では非常に得点を稼いでいるほうかなとは思いますが。

(和田会長)

高校総体の柔道、これ松商学園さんがかなり頑張っているということ。それから空手道についても松商学園ですね。弓道は南信のほうが非常に盛んで、結構頑張っているところがありまして、これがいい成績をあげるときがあるというところがございます。剣道ですと、大会によっても違うんですが、大きな全国大会の場合は予選のリーグがあって、大体予選のリーグを抜けられないで終わっている、ということです。これ20何位となっていますけれども、要するに決勝トーナメントには入れないというような状況が続いていると思います。なかなか勝てないです。もう少し頑張してほしいないつも思っているところです。だから、私の印象でいうとそれほど高い、伸びてるなという印象はまだあんまりないと思うんですね。

(町田委員)

もう1点話をすると、東北信ブロックとかブロックブロックでやっているの、なかなか集まってやるということが皆ないんだそうです。ブロックブロックにお任せしているもので、やっぱり競技力が伸びないという中で、そういう意味でも、拠点があれば選手の交流もできますし、そういう中で必要だという声がありますね。

どうしても、ばらばらになっているような状況を言われる。あと皆、道場とかそういう環境でやっていて強くなると。学校じゃちょっと。クラブ中心でやっているところが、そういう強化をやっているところがやっぱり強いですね、ほかの県も。そういう状況ですね。競技力のほうから言うと。

(犬飼委員)

高校までは何とか学校の中で部活に指導者がいて、環境も整い競技を続けていくんですが、スポーツ全般に言えることですが、長野県の場合、競技を続けたい人が皆他県に出ていってしまうという現実があります。生徒、選手が大学や社会人になっていくときに、そのあたりを長野県にとどまってスポーツを継続しながらいるという魅力づくりを考えるために、系統立った指導のできる人も必要ですし、組織も必要ですし、建物も必要と思っています。なので、高校生でいい成績を修めたり、スポーツを続けていた人間がどうい

ふうの流れでっているのかというのを少し調べていただくのも一つかなというふうに思います。その上で、長野で続けることの魅力をつくっていかないといけないと思うんですね。

(町田委員)

ちょっと補足しますと、高校からも引っ張られているんですね。高校からもよその県に取られているのが現実です。せっかく中学まで育ったんでいいんだけど、柔道も剣道も皆一緒なんですけど、高校でも引き抜かれているんですね。それで、大学に行っているような現実です。

ですから、いい選手はいるんですけど、皆県外に持っていかれる。強い県のほうに行っちゃって、それで育てられるという状況です。高校生から、早いのは中学生から行ってますし。そういうような状況です。

(茅野スポーツ課長)

今、犬飼委員さんからお話がありましたけど、県教委でも課題として十分認識しておりまして、長野県スポーツ推進計画の中でも基本目標の5の中に「スポーツ界における好循環の創出に向けたトップスポーツと地域におけるスポーツとの連携・協働の推進」というのがありまして、大きな課題だということを知っております。アスリートの皆さんが、長野県にとどまっていたら、自らの競技力を伸ばす、また後輩の指導ができる、そういう環境づくりが大事だということで、これはこの5か年の中で十分検討させていただく方向になっております。ちょっと申し添えます。

(和田会長)

確かにおっしゃるとおり、高校でもう引っ張られて、私も知ってますけども。やっぱり、高校生ですと、次大学とかそういうところで、指導者もいていい実績があるところにと、どうしてもやっぱり流れていってしまう。だからそれにかわるものが長野県でつくれるかということが、特に進学問題が絡んできますので、なかなか簡単にはいきませんで、そういう問題もありますし。それから剣道や柔道、ほかのスポーツと違っていわゆる町道場とか、そういうところでコツコツやってきて、それがその中学、高校というようなルートがほかのスポーツとはちょっと違ったところがありまして、だから中学生ぐらいまでは皆中学校で部活をやっている、また道場に行っていてやっていると、そういう意味では非常に地元で密着した形で頑張っている道場もあるわけですよね。だからそういうところから、本当に地元ですとその種目を続けてくれる。あるいは柔道も剣道も、特に剣道なんかは、60歳、70歳はまだ「はな垂れ」という世界ですから。本当の意味での生涯スポーツですから。だから、地元ですとまた下の子供たちを教えてくれるようなサイクルができ上がっていけば、恐らくもっともっと振興していけるし、きっといいことがあるんだろうなと思ってますけれども、なかなかそうっていないのが現実ですから。これはやっぱり考えなければいけないことだと思っています。

(犬飼委員)

産官でですね、一旦、県外には出る。大学で外へ出て、そして競技に親しんで、そこでも実力を発揮して、違う指導者やいろんなスポーツに関わりながら戻ってこられる環境があればいいわけですよね。ということは、県内で働き口がないといけないので、スポーツ

振興には企業さんとの、企業スポーツはもうどんどん力がなくなってきてはいるんですけども、武道の場合個人スポーツの特徴を生かして、個人で道場なり、どこかに関わりながら、お勤めをこちらに戻ってくるっていうふうな環境をつくれるといいなと思います。

(茅野スポーツ課長)

まさに、きょう委員さんでいらしてる酒井委員さんはそういうご経験をされていて、野口委員さんもそうかと思えますけれど。その辺でまたちょっとご意見いただければ。

(酒井委員)

私は、別に指導することを仕事としてというか、それでこちらにいるわけではないんですけども、私はもともと陸上競技をやって、今は確かにこちらの肩書きにもある総合型地域スポーツクラブを運営させていただいてまして、実際細かい中身の話をしますと、武道に関する種目というのは今1種目しかやっておりません。しかも短期教室ということで、今空手をやっております。やはりどうしても武道というと、これちょっと関係者の皆さんの前でこういうことを言うのは失礼かもしれませんが、どうしても敷居が高いような部分とか、どうしてもこう非常に失礼な言い方をしますけども、閉鎖的な部分があって、どうしても一歩踏み込みにくい気持ちがあるわけなんですよね。今回私たちが始めたのは短期教室ということで、10回の教室の中で、それこそ小学生もそうだし、中学生、全く違うスポーツをしている中学生もそうですし、それから大人の方もそうなんですけども、特に小・中学生に関しては、空手という1つの種目なんですけども、体のスキルを高めたりとか感覚をよくする神経系の刺激ということで勉強になるからと、それから大人の方に関してはストレス解消ということで、今その人たちが混ざって10数名の方が来てやってるんですけども、その中でやはり非常に熱心にやる中で、先ほどのテーマにもありましたとおり、礼で始まり礼に終わる、こういったことは非常に子供たちにとってはプラスになってますし、大人についても「実はやったことはないんですけど」と言いながら、だんだん新しい技を覚えていく中で、何て言いますか、何か馴染んでいくというか、そういう面もありますので、非常にいいかなと。やはり指導される方もUターンでこちらに帰って来た方が今指導されているんですけども、もともとは都会のほうでそういう道場をされてた方なんですけども、実際その方は市のスポーツ推進委員をされていたんですけども、その中で自分の専門種目をやるシーンがなかなかないというところもやっぱりありまして、やはりそういった面ではそういう場があることで、ものすごく指導者の方が生き生き指導されるというのがものすごく印象的です。ですので、長期的な、固定的な道場とか教室というふうにすると、なかなかそれは難しいかもしれませんが、そういう何か元々能力を持った方が、力を発揮できるような場をこちらが提供してつくってあげるといっても、これからのスポーツマネジメントの中ではすごく大事なのかなというのを、ちょっと実際運営しながら感じております。

ただ一つ難点は、やはり報酬がなかなかね、難しい部分がありまして、それで生活できるというのはなかなか厳しいですね。やはり副業とか費用弁償程度になってしまうので、私自身もそうですけど、やっぱりなかなかスポーツで飯を食うということは大変です。はい、それが現実です。

(茅野スポーツ課長)

今日ご欠席の藤澤委員さんの経営者協会等とも相談をしながら、長野県の企業の中でアスリートの方を受け入れてもらえるような仕組みづくりをこれから検討していきたいと思っております。非常に難しい大変な課題であるんですけど、またいろいろご意見を、お知恵をこちらにいただけるとありがたいと思います。

(酒井委員)

ぜひ、よろしくをお願いします。

(野口委員)

ちょっとバレーボールの話で恐縮なんですけど、バレーボールは長野県では盛んで、人口も減ってはきてますけど多くて、中学校も全国で活躍し、高校も全国で活躍しますが、その先は皆外に出ていってしまいますね、やはり。戻ってきても就職の場所もない、指導者の資格を取っても、なかなか教員にならない限り自分のやってきた競技をいかせる場所はないというのは現状ですね。なので、犬飼先生のご意見の中で、やっぱり戻ってきて自分が活躍できる場所はすごくスポーツの振興には重要だと思います。それとちょっと視点は違うんですけど、スポーツの最初の出会いというのはすごく大事だとは思いますが、学校の中で必修化されたことで、当初その指導者の問題がたくさんあったと思うんですが、テレビでよく取り上げられたりニュースで取り上げられているのは、生まれて初めてダンスを踊るとか、ブレイクダンスとかね、そういうのを一生懸命練習されてる先生方の姿や講習をされたりということを見てきたんですが、武道については、そんなに急に、なんていうんですかね、その現場の中で、今先生方の中で指導者的な立場の方が、最初の出会い、きちっと武道との出会いを伝えられるような状況にまで教育現場はなっているのでしょうか。

(茅野スポーツ課長)

平成24年度に武道必修化が完全実施される前にですね、当時和田会長さんを中心にいろんな手引書なんかをつくっていただいたり、あと大学等で受講してきたり、もしくは県体育センター等の資格を取る、初段程度でございませけれども、そういうところの研修、全てそういうものクリアしてという学校がほとんどでございませるので、全くないという場合には、例えば、学校外の指導者等をお願いしているケースがあります。

基本的には、全て県が主催する講習会を修了した先生が指導しているという状況です。

(和田会長)

今お話が出ましたけど、武道必修化に向けて、剣道とか柔道とかの団体が中心になりまして、どういうふうにしていったらいいだろうと。あるいは、今いった現場の先生自身が剣道や柔道をやったことがない、ほとんどやったことがないと、教育学部を卒業しても教育学部で柔道、剣道の授業を受けてこなかったという先生も中にはいらっしゃるわけで、そういう問題は確かにありまして。ですから、柔道連盟・剣道連盟が、例えばちょっと剣道を習いたいんだということであればその受け皿になるとか、ここですよという情報をちゃんと発信したり、最終的に作成した手引書は各中学校に渡していますけれども、そういう形ではやっています。ただ現実にはなかなか難しいと思います。ちょっと講習を受けた程度で教えるということは柔道も剣道も恐らく大変なことだと思います。

恐らく、例えばバレーボールとかバスケットボールですと、大体小学校ぐらいからそういうのに少しは触れているけれども、柔道、剣道というのは初めて中学になって始める子がほとんどです。それでしかもその子たちに最初の出会いでどういう印象を与えるか。僕らもぜひいい印象を与えてもらって好きになってもらいたいと考えているんですけども、やっぱりなかなか現実には教えるのは難しいなということも感じています。

そういうことも含めて、これはもうこの前の必修化に向けての会議で終わりなんじゃなくて、実はこれからずっとそういうことは問いかけ続けなきゃいけないことだと思っています。私、信州大学の教育学部ですけども、やっぱり学生の中にも、中学校の先生になりたいんだと言ってるのに、例えば私の剣道の授業を取らないとかね、現実にはいるんですよ、やっぱり。それでも単位はほかので取って、免許は取れますから。というのがこれからも出てくる可能性はいっぱいあります。だから取るように口を酸っぱくして言うんですけど、取るのは学生なもんですから、強制的に取らせるわけにはいかない、という問題もあります。これは現実の問題としてあると思います。野口さんのおっしゃるとおりです。確かに講習を受けたり何かされたりしているとは思いますが、それでもなかなか難しい問題はあり得るということは現実だと思っています。

それと、いい出会いなんですけども、これ前の会議でも言ったんですけども、柔道や剣道を長野県で冬場にやっちはいけないなというのが私の持論なんです。嫌いになるなど。寒いのに裸足でするでしょう。別に床暖房が入ってるわけではありませんから、そこで裸足でするということで、僕は季節的には一番悪い時期にやっているなというふうに思います。ただよく柔道、剣道は心の鍛錬だと、修行だとか言いますが、別に僕は寒さに耐えるのが修行だとは思っていませんので、どうもそういうところで話を終わらせちゃってるところがあるんですが。これはもちろん現場の先生方の種目を配置して、一年間の計画を立てるときにそこしかもう置けないということも当然伺ってるんですけども、そちらを専門にやってる人間からすると、もう少しいい季節で、けがが出にくい季節にやってほしいなと。剣道、柔道で言いますと、寒い時期にやると足の感覚が鈍っていますので、捻挫とかいろんなけがが非常に起こりやすくなります。これはもう実際そのとおりです。ですから、そういうことかなるべくない季節にさせていただきたいなという、言っても詮無いことなんですけど、そういうことも思っております。だから、本当に振興していこうということであれば、あるいは本当にいい授業として中学校でやりたいということで、いろんな面から少しずつでも改革をしていかないと、変えていかないといけないんじゃないかということはほかにもいろいろあります。それがまあ現状だと思っております。

(犬飼委員)

今、子供たちが、自分がその競技に親しむだけでなしに、観客席で世界選手権級の試合に触れて、その態度であるとか、その輝き方だとか、生の姿が見られる機会が長野県にあればスポーツへの関心が高まりやってみたいなという、一步を進むのかなと。スポーツ振興ということでいえばそんな大会が呼べる会場ができるといいなと思いますね。

(和田会長)

おっしゃるとおりだと思います。やっぱりいいプレーを見る、レベルの高いいい動きを見る、というのはやっぱりものすごく大きな感動を与えますので、そういうことが長野県でも開かれるようにしていくことはすごく大事なことだと思いますね。

(町田委員)

会長がおっしゃるように、けがの問題があります。例えば柔道では、いろんな事故があったりしたじゃないですか。やっぱり指導者はしっかりと教育を受けた人がやらないと、事故につながる危険がある。そういう面では、指導者の先生方のマニュアルをつくらなければ、ただ受け身をとればいいのか、そういうやり方をやってるのかやってないかよくわからないんですけど。相撲は今DVDをつくって、日本相撲連盟の中でそういうのを立ち上げて、学校には一応そういうのをやらせていると。「しこ踏め、しこ踏め」なんてやっていますけれど。やっぱり基本的に相撲のしこことというのはものすごいいいんですよね。

競技というのは勝たなければやっぱりね、勝負があって初めて好きになっていくんですよね。何をどういう教え方をするかというのは会長のほうが詳しいとは思いますが、勝つことによってまたレベルアップしていくじゃないですか。それと中学校における武道の必修化の中でどういう授業をやっていけばいいのかなとか、歴史を教えたりね、そういうのも必要じゃないかなと思ったりしています。やっぱり礼儀作法は武道にはいると思うんですね。

特に剣道がすばらしいと思う。ガッツポーズなんかしたら負けなんですから。相撲も今ガッツポーズする人も相当いて、モンゴルからきた人たちがしたので。ただ、本来はガッツポーズはだめなんです、禁止なんです。やっぱり礼に始まって礼に終わる。負けたら対戦相手には敬意を、そういう中で、礼というのを重んじてやっていますからね。この頃は、インターハイなんかをみても学生が皆ガッツポーズをする。日本の伝統文化というのは対戦相手がいて初めて成り立ちますので、あまりガッツポーズはやらないということで、厳しくやっています。剣道は一番しっかりしていますね。剣道はガッツポーズなんかすると負けです。

(和田会長)

そうです。取り消されます。厳しいです。「取った取った」とか言っても取消しです。

しかし、学校の授業の中で教えることということ、それから競技として勝つことを目指してやるというのは必ずしも一緒ではないなという感じに私は思っています。確かに、勝負に勝つとか勝利を目指して一生懸命頑張るといことはすごく大事なことで、またそれはすごい喜びなんですけれども、学校の体育の授業あるいは部活の中では若干そうだと思うんですが、ただ勝つことだけを目指してやるということではなくて、もっと大事なところが多分あるんだと思います。私は、剣道でいえば剣道の一番おもしろいところはどこだろうということ、どうやって生徒に教えようということだと思っています。だから学習指導要領の文句を言うわけじゃないんですけども、あれに載ってるような細かい技を全部教えるような先生は恐らくいないはずですけども、ああいうことではなくてその中からどういうふうに剣道の一番剣道らしくておもしろいと思わせるところをうまく子供たちに伝えるかという、そういう授業を工夫することが、一番大事なことだと思っていますので、少なくとも私はそういうふうに学生には教えてます。そういう形でやるのが大事かなと思っています。多分、学習指導要領には最後に自由に技を仕掛けあってその試合ができること、試合を楽しむことができることが目的になってますけど、私はそれは違うなという感じが若干してまして、ここでそういうことを言ってもしょうがないですけども。だからともかく学校で教えることと、スポーツで勝つことを教えること、両方大事なんですけど

れども、恐らくそのあたりに違いはあるだろうなという感じに私は思っています。武道振興ということでいえば嫌いにさせないということと、やっぱり何がおもしろいのということとを伝えることが大事なんだろうなと思っていますので、ぜひ、そういう授業を学校の先生方にはやっていただきたいなというふうに思っています。

(犬飼委員)

スポーツ全般にいいわたることだと思うんですけども、あくまでもそのスポーツをしようとする人が主体であって、とかく指導者のほうがこうするぞ、ああするぞというふうな形が日本型スポーツにはありがちな。なので勝ちを最優先する指導者のところにつくと、その楽しみだとか、それから体を動かす気持ちよさだとかそういうのを置いておいて、子供たちもあるいは保護者も勝ちを求めるほうにいつてしまう、というふうなことが起こりがちな現状があるかな。スポーツをしようとする人間を中心に据えて考えると、酒井委員さんの総合型でやってるような、体験型の武道で楽しみを伝えていくとか、それでおもしろいと思った子が後から道場へ行ってみようかなというふうに進んでいくという段階があると思うんです。あくまでも相手が主体の。そんなのを見極められる力をもった指導者、ファシリテートできる指導者が増えてほしいな。そのためにはこう組織があって指導者の研修がきちりと行われていくようなそんな組織体が必要かなと。フランスの柔道の教育のプロセスをたどって育てていくという話を知ったりすると、日本柔道、発祥の地ですので浸透して欲しいなというふうに思います。

(和田会長)

そうですね。本当にそのとおりですね。

(町田委員)

基本的にテレビとかね、そういうものしか見る機会がないと思うんですよね。相撲でも剣道でも何でもそうなんですけど、やっぱりアリーナの観客席があるところが集合していたほうが絶対いいです。そういうのは長野県にないので、観客席がある、見られる、そういう施設があればうんと身近に感じるんじゃないかなと思います。そういう意味でも大会だけを見に行くんじゃなくて、稽古も練習も見に行くようなそういう施設があれば一番いいんじゃないかと。平場で一緒になって見るよりも、上のほうから見てね、ああこういうやり方なのかとか。それが一番身近に感じるんじゃないかなと思います。バレーボールなんかはしょっちゅうテレビでやったりしてるんですけども、武道はテレビでもあんまり放映されないし、そういう意味ではちょっと先ほど酒井さんが言ってる、何か敷居が高いような、入りにくいような、というのは事実そうなんです。見たことないという人が多い。相撲なんかは小学生の大会とかそういうレベルのしか皆見られないので、そういう意味ではちょっとレベルが上の人も見られるような施設が必要じゃないかなと私は思ってます。

(和田会長)

酒井さんがおっしゃった、ちょっと垣根が高いというか、入りにくいという感じがあるという、確かにそういうふう感じられているなということとを私自身も感じる場合があります。やっぱり特殊な世界なんじゃなくて、スポーツとして楽しんでいるわけで、ただ伝統的な部分で大分違った部分はありますけれども、やってることはもう身体運動だし、ス

スポーツだしということだということがもう少しわかりやすく、身近に感じられる場所がもしあればもっといいかなというふうに思います。剣道の話で言いますと、大体国体とかなんかでもほとんど放送されないですよ。決勝戦でもあんまり放送されないし。毎年やっているのは全日本選手権が11月頃ですが、あれ1つだけ。11月3日の文化の日にいつも準決勝あたりから放送されますが、あれ1つだけぐらいですね。あとはやらないです。九州あたりですと、玉竜旗なんていう大会は地元のテレビ局がずっと放送してるんですよ。九州は柔・剣道盛んなところですから、そういうところが視聴率もとれるのかもしれませんが、そういうところはあります。

(犬飼委員)

おもしろい話を聞いたことがあります。スポーツ観戦ツアーを地域の一般の人たち向けに公民館活動で企画して、そのスポーツに精通した人間が実況中継しながら観戦するのだそうです。観客席で。そうすると、剣道の試合でも、素人目にはどこで一本とれたのか分からない、どっちが勝ったのかわからない、そんなのをきちんところ間近で解説してくれるので、とても見てて楽しいし、好評だったそうです。そんなのも考えていくとおもしろいかなと。

(和田会長)

剣道はわかりませんね。

(犬飼委員)

目がついていかない。

(町田委員)

剣道、空手というのは本当にすごい。空手の人に剣道を見てもらえばわかりますね。やっぱり目は空手もすごい目をしている。剣道、空手、ボクシングは大体わかりますね、剣道の試合でこっちが一本だったと。剣道の人に空手の大会を見せると大体わかる。そのくらい目がやっぱり違う。

(和田会長)

多分ですけど、剣道の本一ですと、専門的な話なんですけど、審判しててもそうなんですけど、あれは予測して審判してますよ、実は。だから、そろそろ行くぞと、「あ、行った」という感じなんです。つまりそういうのが経験的に読めているので、ミスジャッジも非常に少ないし、ほとんど相打ちのようなやつでどうしてわかるのと皆さんおっしゃるんですけど、それはもう、その前の攻めあっているときの感じで、そろそろこっちが出そうだというのを見てるんですよ、実は。予測が働いてみているというところがあります。だから、剣道をやっている人はその予測が働くから「一本いった」というのがすぐわかるんですが、やったことのない人はその予測が働きませんから、よほど横でうまく言ってもらわないと、恐らくわからないと思います。ですから私は審判してもよく思うんですけど、全く予想外のところでぽつと打ちが出たときにすごく旗を上げにくいんです、予測以外のところっていうのは。だから大きな大会でもたまにそういうことがあって、どうして今のわからないんだろうという感じのときがありますけど、その審判からすると予測できなかった



たという、そういう瞬間があるんだなというふうに僕は思って、経験してますけどね。

(犬飼委員)

こういう話を聞くだけで楽しいですね。

(野口委員)

メディアの力は大事だなと思いますね。ちょっと芸能人とかお笑い芸人が、昔剣道をやっていたと真剣勝負をやってるじゃないですか。あれでも解説しながらやってもらうので、ああそういうことなのかというのもありますし、やっぱりそれも必修化されたことで、日本人であり、日本の伝統文化である競技であるのに、海外の人はそういう日本の国技や文化を知っていて、日本人で関わったことがないということのほうが恥ずかしいような気がしますね。私もほんとに遠くない昔に信州大学で授業を受けたときに剣道を初めてやらせていただきましたけれども、おもしろかったですね。防具をかぶると臭かったですけど。防具をかぶることと、唯一年上の先生を棒で殴っていいっていうのが、すごい競技だなと思いましたけれども、そういう出会いがあることはすごく大事だなと思いますね。

(茅野スポーツ課長)

今日は第1回ということで、十分な資料が用意できなかったものですから、先ほど都道府県別の競技人口の状況ですとか、そういうこれからさらに議論を深めていくために、なんかこんなこともあったらいいなということ、この場であればおっしゃっていただきたいのですが、そうでなければ、またどしどしこんな資料を用意して欲しいということをおっしゃっていただければ大変ありがたいと思っております。

(和田会長)

先ほどの九州のテレビの話になるんですけども、九州は伝統的に武道が強いんですけども、やっぱり子供のうちから周りの大人たちが一生懸命同じ稽古に参加できる環境があるのかなというふうに思いましたね。道場を含めいろんなところで。大人はもう皆、積極的に参加してずっと一緒に子供たちとやって教えていくので、やっぱりしっかりした形に育っていくんですね。そういう社会環境があるもんだから、テレビで放送しても当然、皆楽しみにして見るわけで、だからやっぱりそういう環境がそもそも草の根のところから本当に広がっていかないと、広がらないのだろうなと思います。ただ上から箱物つくっただけでもやっぱりだめだと思っし、いろいろなことが大事になってくるんだなというふうに思ってます。

(犬飼委員)

今の子供たちにスポーツに親しんでもらうためには、親がかりなんですよね。体育館までの足がない、それから道具が必要なんていうこと全て。だから親が連れてってやらせてあげるんじゃないくて、親も一緒にできるようなスポーツ環境をつくれるといいかなと。そうすると週に2回、3回のスポーツをしようというスポーツ施策についても、「子供に引かれてスポーツ三昧」じゃないんですけども、子供と一緒に親御さんがスポーツをすることによって、スポーツ振興、県のスポーツ振興全体が伸びていくのかなと。あるいはおじいちゃん、おばあちゃんも含めて武道ならば可能ですよというふうな誘いで入っていくの

も一つかなと思います。

（町田委員）

長野県武道連絡協議会というのは、武道館建設ということが一番の大前提としてつくったんですけど、やっぱり各競技において、各ブロックの予選会はいいいんだけど、最終的に県立武道館に行こうという、そういう目標が拠点的に一つできると、県立武道館で大会ができるんだという、そういう意味合いも各団体からの意見としてありました。よその県もいくつか見てるんですけど、館長さんに聞くと、各ブロックでやってるんだけど、最終的に県の大会はここでやりますと、これを皆目指してますという言い方をされたもので。そういう中でも箱物だといえど、やっぱりそこに行きたいんだと、最終的にそこで優勝したいなというのが、施設見学の中で館長さんに言われました。各競技団体に聞くと、やっぱりいつも仮設のところでやるよりは、最終的に県大会は、そういうところでやりたいという意味合いの言葉も他の競技団体から出ましたんで、なんか拠点的な施設があるといいんじゃないかなというふうに感じております。

（酒井委員）

武道施設の状況の表資料6-1ですね、これを見ると、割合、ちょっと別の観点からですけど、建設年月が昭和50年代とか、もう既に30年以上たってる建物が非常に多くて。この年数を見ると、やまびこ国体に絡めてつくったような施設とか結構あるんじゃないかなと思うんです。長野市を中心に冬季オリンピックがありましたけれども、それによって、かなり施設も充実しましたけども、なんかそういった大きな大会の誘致、そういったものも今後必要になってくるかなと思うし、長野県の国体に関してもそろそろ来んじゃないですかね。10数年後には恐らく回ってくるんじゃないかと思えますんで、なんかそういうものにうまく絡めながら、ちょっと時間があるのかないのかはわかりませんが、そういったものであるとか、さすがにオリンピックは無理にしてみても、アジア大会とかアジア選手権だとか、そういったものも恐らくあるんじゃないかと思えます。皆さんもご承知のとおり私が住んでます南信地方ではニアがこの秋には着工になりますけれども、13年後にはできるわけなので、例えば名古屋空港を使っても20~30分で飯田の地には来れるわけだし、そういう意味ではうまく交通網の発達だとか、長野県というのはこういういい所だということをアピールするためにも、そういった大会の誘致、そういうものもちょっと施策的に進めていきながら、それに格好をつけた形の中でいろんな補助が引っ張れると思えますんで、それでそういったシンボルをつくるかそういったこともすごく大事なのかなという感じがしますね。

それとあと東京オリンピックもありますけども、今各地がキャンプ地ですね、大会のメイン会場からある程度アクセスのいい場所の中で練習をする場所を結構誘致してますけども、そういった面では例えば涼しい場所で、長野市なら長野市でもいいかと思うんですけども、軽井沢でも結構ですけども、そういった場所にもしそういった施設があればそういう練習の場所にもなるかもしれない、なり得る可能性もありますので、何かそういう大会の誘致なんかもううまく絡めながら、施設の充実を図っていくのも一つの方法かなというふうに感じております。特に最近は随分地味になってまいりましたけれども、私も9回ほど国体に出させていただきましたけども、行く先々でやっぱりすばらしい施設ができてますよね。ですので、やはりああいう力を借りるといことも一つの手かなと。確かに今お

話を聞いてみると、私も最初に質問させていただきましたが、そういう県というくくりの中でのシンボルとなるものが絶対必要だと思うんです。先ほどから何度も出てますけど、一流のものを見るためには一流の場所がないと見られないので、そういうものは必ずあれば客が来ますんで、そういう意味ではそういうものに投資していくのもそうだと思いますし、こう見る範囲では先ほど言ったとおり施設がだいぶ老朽化してますんで、どこかその中で1か所いい場所があればそれを県のテコ入れをしながら充実させた施設をつくるのも、一つの方法なのかなと思いますし、何かそういうきっかけをうまく利用した展開をぜひしたらいいんじゃないかなという感じがします。ちょっと先の長い話になりますけども。

(和田会長)

国体はまだ、だいぶ先ですかね。

(茅野スポーツ課長)

昭和53年にやまびこ国体を開催して以来だいぶたちますけど、もう既に2巡目が回っているところがあります。開催地の順番はブロックごとに分かれておりまして、その中で、中ブロックでなおかつ北信越ブロックでいきますと、まさにリニアの開通の13年後の辺りが長野県がそろそろ開かなければいけないような時期になるんじゃないかなと。ブロックの順番でいくとそのような状況で、その頃までに北信越5県の中では全て2巡回っていて、長野県が多分まだという状況になってくるかなという感じではあります。

(和田会長)

ちょっと先なんですね。まだね。

(町田委員)

この資料の中で、武道連絡協議会というか、武道競技団体に陳情云々とかいうことがあるんですが、実は平成4年に正式に一遍県に出しているんです。平成4年という時期は、平成3年が冬季五輪が決定した時期で、私はそのとき入ってないんですが、柔道、剣道関係者に聞くと、どこでつくったらいいかという問題もあったんですが、やっぱりオリンピックと重なってそんな県立武道館じゃないよと、それはちょっと勘弁してくれと。それよりもまず冬季五輪を成功させたいということでした。そしてこの頃は、平成20年になってまた陳情をするようになったんですけども。やっぱりオリンピックというものの施設のダブリがありましたので、皆旗をおろしたというのを先輩諸君に聞いたんです。ほかの県より遅れた理由も若干、その冬季五輪の関係があるということを知っていますので。そこら辺もまた考慮して、我慢ばかりしてきて、新潟県と長野県がないという状況で。先ほどの今度の東京オリンピックの関係でいうと、新潟県の武道館が上越市にできることが決定しています。新潟県の状況を聞きますと、やっぱり練習会場で柔道を誘致したいということで、あと4年では竣工させるという話で今進められています。それも新潟県の武道連絡協議会とか、基本構想の中で、それも1つの柱として前年までに竣工させるということで、今進めている、加速している、という状況です。

(和田会長)

また各県の施設の内容をいろいろ表にいただいた資料を見ていると、柔道、剣道、

その他弓道、相撲といろんなものがあるだけじゃなくて、それこそトレーニング室から会議室からいろんな施設を合わせている。合宿所も持っているところがあるんですね。ですから本当に大きな施設になってる場合もあるし。ですからどの程度のことを、これから具体的な話になっていくときのことだとは思いますが、具体的にどういう大きさのものがいいかとかという話に恐らくなっていくんだと思いますが、全国のいろんな施設を見ると、やはりこれも大きいから中ぐらいから、いろいろな施設があるんだなということがわかります。長野県にはどれぐらいがふさわしいだろうなと思いますね。どういうことを求めてつくるのかという話になっていくんだと思います。

皆さんほかにご意見いかがでしょうか。特にご意見ないようでしたら。本日はいろんな意見が出ました。最初にしてはいろんな話が出てまいりまして、いろいろ私も勉強になりました。ありがとうございました。

それではですね、最後に先ほど事務局のほうから一人一人紹介はございましたけども、お名前だけでしたので、簡単にそれぞれまだ詳しく知らないこともございますので、どうぞお一人ずつ今回の議事のご意見でもいいし、あるいは簡単に自分のどういうことをやってらしたのか、スポーツとの関わりについて簡単に一言触れていただきたいと思っております。

(酒井委員)

所属はこちらにありますとおり、とよおか総合型地域スポーツクラブというクラブのマネジャー、運営の責任者を今やっております。出身の種目は陸上競技の競歩という種目です。先ほど武道はわかりづらいという話も出てきましたけど、競歩はもっとわかりづらいです。まず理解できる人はなかなかいないという非常に難しい、難しいと言いますか、言えば簡単なんですけども、ひざが曲がっちゃいけない、浮かなきゃいいんですけども。そういう種目を15年ほどやっております、今から昭和の最後の年ですけども、韓国ソウルオリンピックに出場させていただいて、ちょうど90年代のかつて強かった選手ということで、幸いにも今のところまだ日本記録が2個ばかり残っていますので、また興味ありましたら陸連のサイトを見ていただくと、今後まずやらないような種目ですので。永遠のホルダーとは申しませんが。

現在ですけど、先ほど言いましたとおりスポーツクラブの運営をやっているんですが、先ほど犬飼先生からもお話がありましたけども、やはりスポーツの入り口、自分自身が一番感じたことなんですけども、今までどうしても特化したスポーツの中に入ってしまうと、まずその種目以外のものに触れる機会がない。私も今から17年ほど前にこちらに帰ってきたんですけども、今までどっぷり自分の周りにスポーツがあったのにそれがいないというのがすごく残念だし、ましてや自分の地域の子供たちがそんなにスポーツがたけてるわけでもなくて、じゃあ自分にできることは何かということ考えたときに、そういう入り口をつくってあげたいなということで、こちらに帰ってきたのを一つのきっかけに競技力向上からは一線を引いて、じゃあ僕は底辺というかパイを広げるほうの仕事しようということで現在に至っております。昨日の話なんですけど、たまたまトレイルランニングをしまして、結構足が痛くてしょうがないんですけども、走るほうが専門、走る歩くが専門なんですけども、山の中をいろんな遊びをしながら走り回るというまた新たな世界を発見できたりとか、そういう自分が今まであんまり狭い世界でずっとやってきたながらも、今少しずつ視野が広がってるということは非常に楽しくて、ましてや、そこにこう仲間が広がっていく、一つのコミュニティとしてのスポーツを今、非常に楽しみながらやってお

ります。ちょっと武道に関して全く素人で、最近その短期教室でやってる空手を今少し楽しんでやってるぐらいで、武道らしい武道は全く縁がないですけども、全くそういうちょっと畑違いの観点からこの検討会にご意見を出させていただけたらありがたいかなと思います。また、とぼけたこと言うかもしれませんが、またよろしくお願ひしたいと思ひます。

(野口委員)

全く武道のことはわからないことが多いので、酒井さんの話じゃないですけど、そんなことも知らないのかというような基本的な質問が多くなるかとは思ひます。でも、やはりそんなことも知らない方々がたくさんいる中で、何か県立武道館をつくるに当たって、県民皆がそれだから絶対必要だというふうに賛同してもらえりょうなものづくりをしていかないとだめかなと思ひます。それと、先ほどの和田先生のお話で、これから教員になろうとしている学生が武道を取らないという現状をお聞きしてびっくりしたんですが、ぜひそういうところの入り口で出会うところは、必修化するのは別の話になっちゃうかもしれませんが、そういうところをきちっとやりながらあくまで競技スポーツの定義を広げるといふことではなくて、武道が大好きな剣道が大好きな子供たちをたくさんつくっていただいて、低年齢からやることは賛成なんですけど、早期に低年齢の早くにあんまり競技志向化されないことを願ひます。それと、先ほど言ひましたけれども、武道という魅力を知らない方々に、どんどん発信できるきっかけづくりになればいいなと思ひてこの検討会、勉強させていただきながら参加させていただきたいと思ひます。よろしくお願ひいたします。

(町田委員)

本業は長野県相撲連盟の理事長ということで、実は私、昭和53年のやまびこ国体で木曾で相撲競技の成年男子の部で出ました。それから、監督を含めて15年、20年ぐらいやりましたですか。今理事長という格好ですが、生まれたのは石川県です。あの当時は長野県の相撲が弱いということで、たまたま富山県で国体にも出てましたが、昭和52年に長野に来てそれっきりずっと長野県人になりましたですけども、特に相撲はマイナーです。相撲というと木曾が強いということで、重点的に今やってるのは、高校生は更科農業と木曾青峰という中で、本当に少ないんですけど、全国的レベルからいうともう随分上にきました。その中で今ももう大学行ってる連中が17人ぐらい近畿大学、東京農業大学、東洋大学にいます。先だって大道という選手が東洋大学の4年なんですけど、東日本大会で個人優勝してます。彼は全国で、大学にいても7つ8つの優勝をしてます。恐らくプロに行くんじゃないかと思ひてますが、そういう中で育ってます。

もう1点は競技人口の問題。昨日も、実は南長野運動公園でホクトさんに後援していただいたんですが、県の教育委員会にも。小学生の大会、これ飯田から、駒ヶ根、伊那、長野市、木曾、全部で204名の選手、15団体で。小学校まではやるんだけど、中学校、高校となると全滅という状況もある。

それと長野県武道連絡協議会で陳情を17万集めたといふのは、この平成22年の2月まで陳情してたわけなんですけど、当初10万人を目指していこうということやったんですけど、わずか2か月で17万集まりました。長野県に在住の人という限定でやったんですけど、2か月間で17万も集まると思ひていませんでした。それだけやっぱり皆欲しいのだ

など。10月に入って11月の終わりにはもう17万でもうやめましょうという形になりました。そういう中でみんな熱い気持ちがあるんだなと思ってました。本当に感謝しています。当初は、人口200万人だから5%集めればいいんじゃないかという話で、10万人ということだったんですけど。そういう中ではやっぱり皆欲しいんだなということを感じてまいってる次第です。

そういう中で、箱物はそうなんです、県民の皆さんに同意していただけるようないい施設をつくられたらいいんじゃないかなと思っております。ぜひ、建設のほうも代表みたいに来てますけど、今後共よろしく願います。

(犬飼委員)

小さい体で何スポーツをやったんだって、器械体操やってまして。なので剣道でどっちが勝ったのかというのはわからないんですけど、何回宙返りしたかとか何回ひねったかとかいうのはわかります。スポーツって目になれて、それに親しんでると見え方が違うんだなというのをつくづく感じたりしているところです。幼児教育の世界に入りまして、子供たちに運動を、動く体をつくっていくというふうな上で保育所養成をしたりしている中で、今の保育の現場、幼稚園教育の現場で子供たちの体を育てていくというのは環境構成からとても難しいなというふうなことを感じるようになりました。そしてスポーツ振興に何か関わっていけたらなというふうなことで、幼児教育者を育てる学校から移籍をして今、松本大学にいます。地域の中に入って大人から子供までの健康を含めた運動指導であるとか、スポーツ振興であるとかをするためには、やっぱり楽しく好きになってもらいながらするためには指導者がものすごいかなめだし、環境構成も大事だし、今若い学生の力ってすごく大きいなというふうなことを感じている状況です。自分もスポーツ好きでありながらだんだんこう、言うこときかなくなってる体を実感しながらこれから何をしようかなと、何を楽しみにスポーツに親しんでいこうかなとそんなふうな思いでいるところです。

(和田会長)

私は信州大学の教育学部に勤務しております。教育学部ですから当然教員になろうとする学生が多いところですので、先ほど話をしたように少しでもいい先生になって欲しいなということで、体育の実技、授業にかかわる話をいろいろ、実技の授業とかいろいろやっております。私は専門の実技は剣道です。それから研究では歴史が専門なものですから、特に武道史、剣道の歴史とかそういうことを専門に研究しております。

先ほど町田委員が、相撲は小学生はよくやると言いましたけど、実は長野県というのは子供相撲というのは全国に比べて非常に盛んなところで、神社なんかには土俵があったりして子供たちを集めてやるというのはほかの県ではあまりまだ見られないです。ですからそういうのは調べたことがありましたけども、やっぱりそういう地域性があるんだなということを感じました。でも、中学、高校とやらなくなっちゃうという非常にこれも寂しいことで、そういうところからぜひ、人口がまた増えていって親しむ人が増えればいいなというふうに感じました。種目として剣道なものですから剣道史が一番中心で、特に江戸時代の古いものを読むのが好きで、古文書を読むのが大好きでそれで仕事をしております。剣道も今でも続けておりますので、少しでも長野県の剣道、特に武道館の建設等が具体的な形になっていけばいいなというふうなふうにずっと感じておりました。「長野県には武道館な

いの」と何回か言われたことがあるんですが、外の県の人に。ちょっと恥ずかしいような思いをしたことが何回もありました。ですからぜひ、そういうのは実現するといいなというふうに現在思っております。この会で少しでもそういう方向性が見えてくればいいなと思いますので、皆さんにもよろしくご協力をお願いしたいと思います。

以上で終わりにしたいと思います。長いことありがとうございました。お忙しいところ。また次回、よろしく願いいたします。

じゃあ、これで終わりにしたいと思います。お疲れ様でした。